

教師、生徒の準備期間としての 3年生0学期の指導

時期の特徴

生徒は入試を意識し始めているが、志望はまだ熟考されたものではない。部活動で多忙なこともあり、進路に関する意識付けを行っても具体的な変化として表れにくい。

指導のポイント

3年生0学期には生徒一人ひとりへ「進級前の優先事項」を具体的に示す。また、教師にとっても3学年団への準備期間と位置付け、生徒と共に意識を高めていく。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 センター試験分析で「3年生担任」を疑似体験する

……→ 図1

◎3年生0学期の生徒への意識付けとして、センター試験に挑戦させる学校は少なくない。センター試験の活用を生徒の意識付けだけで終わらせるのではなく、自校の3年生の結果と、全国平均を比較し、自校の弱点を分析することで、今後強化すべき指導内容を立案することが重要だ(図1)。分析した内容は、生徒向けに配布するものと自校の弱点などをまとめた教師保管用に分けておく。3年生0学期には、教師も3年生に向けた準備を進めておく必要がある。

2 分野別成績推移から、学年全体を伸ばすための学力層別戦略を立案

……→ 図2

◎学年全体の学力を伸ばしていくには、各学力層に向けた具体的な指導の戦略が必要だ。上位層、中下位層それぞれの弱点科目・分野を模試結果で分析し、4月以降、授業や補習、家庭学習で重点的に取り組ませるべき科目は何かを明らかにする。そして、教科担任も巻き込み、次年度の指導方針の素案へとまとめていく。また個別の生徒に対しても「最低限これだけはやっておこう」と具体的なアドバイスを行っていく必要がある。模試の分野別成績推移から弱点を把握し、「文法が弱いから、まずそれを教科書で優先的に復習するように」など生徒が動きやすいように声を掛ける。

対教師へのデータ

センター試験分析と分野別成績推移から3年生に向けての具体的な戦略を立案

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎自校の3年生のセンター試験の結果と全国平均を2学年団で分析し、弱点を踏まえて、今後の指導方針を立案していく(図1)

STEP 2

◎模試の単元別の推移(図2)を基に生徒個々、更に学年全体の弱点を分析、志望校検討会など学年全体が集まる場で共有する

STEP 3

◎図1と図2から、弱点克服のために3年生での授業や補習の方針などを立案する

STEP 4

◎図2を用いて個々の生徒へ弱点克服のための具体的なアドバイスを行っていく

英語 平均点 全国 122.8 本校 140.7

◎問題別正解率 (上段…全国平均、下段…本校平均)

問題番号	設問	正解率	問題番号	設問	正解率		
1	A	1	3	A	1		
					20.1		63.2
					26.3		72.5
					20.6		88.9
					47.4		92.2
		44.6			78.4		
		57.5			85.0		
		68.5			75.4		
		50.3			72.3		
		64.5			77.0		
B	B	1	C	2	1		
					29.8		69.4
					46.7		68.2
	47.6		46.4				

■出題傾向分析

第1問Bのアクセント問題は、見出し語がない形式での出題になった。また、第6問では段落構成を問う出題が消え、段落の要旨を並べ換える問題が出題された。出題分野は、昨年度同様発音・アクセントから、読解、視覚情報を含む英文理解までの幅広い領域となっており、多岐にわたるジャンル・形式の出題であった。素材文の語数は第5問で200語程度増加し、全体としても昨年度よりやや増加したものの、全体の難度はやや易化したといえる… (以下省略)

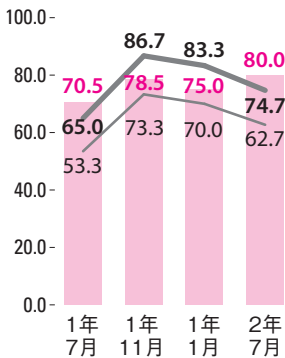
■次年度に向けて必要な指導

内容的には教科書をしっかりと学習しておけば十分に対応できるレベルである。だが、読み込む英文の量や設問数が多く、解答時間を短いと感じる生徒は本校でも多かった。演習の段階で、時間を区切って問題を解かせる指導が今後はより早期から必要であろう。また、読解力養成のため、数多く英文に当たらせているが、段落ごとに内容をまとめながら読むように指導を徹底していきたい。更に、英作文の添削においても、文法的に間違っていないかばかりに関心が低いが、表現レベルでもネイティブが日常的に… (以下略)

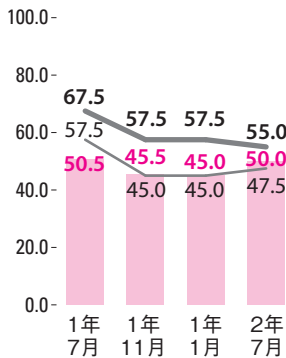
図2 優先順位の高い学習分野を把握するための分野別得点率

英語 *太線は偏差値60以上の平均得点率、細線は偏差値59~55の平均得点率。棒グラフは生徒個人の得点率推移。

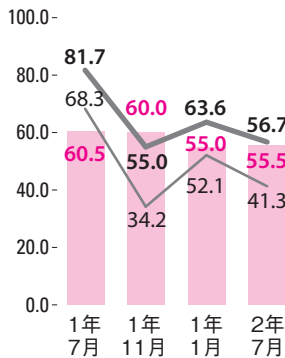
◎会話表現



◎発音・アクセント



◎文法・語法



国語、数学、英語の3教科について、分野別成績推移を基に個々の生徒が最優先に取り組むべき分野を明らかにしていく。全国平均と比べて成績が低い分野や、成績が下降傾向にある分野の優先順位を上げて学習させる。

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ (高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

取り組みを線でつなげてモチベーションを上げる

3年生0学期の指導の大切さは、高校現場では共通理解を得られつつある。だからこそ、この時期に進路講演会などが行われることも多いが、生徒にとっては一時的な意欲の向上で終わってしまうことも少なくない。模試の復習や面談などを活用して指導と指導を線でつなぐことで、モチベーションを持続的に向上させ、受験生への切り替えを図っていききたい。

経験が少ない教師に、「入試」の準備の徹底を行う

新3年生は誰が受け持つか、この時点では分からない。とはいえ、多くの場合、2学年団の半数前後が持ち上がる。学年団に若手や赴任歴の浅い教師が多い場合、2年生の指導と3年生の指導がどうリンクし、どんな準備が必要なのかをこの時期から明確にし、3年生の担任となる準備を進める。
 * 2010年10月号 本企画「図1 3年0学期学年団の指導の目線合わせシート」参照

志望校検討会で教科担任の役割を明確化

志望校検討会では生徒一人ひとりの成績を評価するが、それだけに終わらず、担任、進路、教科それぞれが3年生0学期にどう行動していけば良いか、方向を確認する重要な場と位置付けたい。3年生4月をどんな学力状況で迎えたいのか、そのために教科担任が行うべき指導は何かを明確にすることが必要だ。3年生になる前に弱点を把握し、指導の方針を固めたい。

目的別データ活用

1 進路志望調査票で、生徒に進路を考えるきっかけを与える

……→ 図3

◎2年生は志望校決定などの進路選択が気になりながらも、部活動などに追われている状況だ。そのため、3年生0学期を迎えても、進路についてしっかりと考える機会を得られていない可能性がある。現在の志望校について詳しく調べ、本当に自分が行きたい大学かを考える場を与えることが大切だ。その際、上位層に関してはどこを志望しているのか「大学名」を確認し、中下位層は「書いているかどうか」に着目して次の指導を考える。具体的な大学名が書けていない場合でも、「なぜ書けなかったのか、どう迷ったのか」という視点から面談することで生徒の思考が深まる。また、併せて「志望校は変えられる。むしろ3年生になる前に試行錯誤することが重要だ」ということも伝えたい。

2 進路志望調査票を面談につなげ、進路意欲を向上させる

……→ 図4

◎生徒に進路志望調査票を詳細に書かせる以上、教師はそれをフルに活用し、指導へとフィードバックしていかなければならない。生徒が書いた志望を子細に把握し、生徒ごとにどの部分の検討が不十分かを分析し、声掛けにつなげていく。また、面談では、生徒に自ら語らせるよう働き掛け、揺さぶり、徐々に志望を「本物」に固めていく。

対生徒
への
データ

進路志望調査票と面談指導をきっかけに
進路を真剣に調べ、考えさせる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎図3を見本用紙と共に配布して、生徒に1週間ほどで記入させる	◎生徒の記入した図3をコピーし、1枚は教師用、もう1枚を生徒用とする	◎他の生徒がどれくらい志望を高めているかを意識させるために、LHRなどに生徒同士で図3を見せ合う時間を設ける	◎各生徒が記入した図3を図4などの観点から分析し、面談での指導につなげていく

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトでご覧いただけます。

- 2007年12月号
- 2009年10月号
- 2年生を受験生にする「3年0学期」の意識付け
- 「3年生0学期」の教師の姿勢、生徒への意識付け
- 2010年10月号

「生徒と教師の助走期間としての3年生0学期の意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトから
ダウンロード!

図3 入試までの1年を考え始めるための「進路志望調査票」

2年 組 氏名 _____

将来の目標 (バイオテクノロジーを学びたい)

		第1志望	第2志望	第3志望
大学		千葉	新潟	
学部・学科		園芸・応用生命化	農、応用生物化	
国立・公立・私立・その他		国立	国立	
入試日程		前期	前期	
定員		32	35	
難易度 (B判定の偏差値)		60 (進研模試)	55 (進研模試)	
この大学・学部を選んだ理由		家から通える 大学院進学率が高い	米に関心研究が盛ん	
入試科目・配点	センター試験			
	英語 (うちリスニング)	200 (40)	200 (40)	
	国語	200	200	
	数学①	100	100	
	数学②	100	100	
	地歴 公民	100	100	

志望校に関して調べさせる項目は、左記の他には所在地、大学の特徴、難易度、推薦・AO入試の有無、就職・進学状況などが考えられる。

何を書けば良いかわからない生徒もいるので、事前に記入例が入った調査票を配付し、選択科目や配点に関する基本的な解説をしておく。

図4 「進路志望調査票」を生かす面談のポイント

■ 志望意図を確かめ、可能性を広げる

「人を助けたいから医学部を志望した」と記入している場合、なぜ薬学系や医療技術系でなく医学部なのか、工学部や理学部で「人助け」というキーワードで学べる学問はないかなどを聞き、視野を広げながら志望を「本物」にする。

■ 志望学部にはばらつきはないか

農学部、法学部、工学部など、志望学部に一貫性が乏しい場合、どうしてそのような志望になっているのかを聞く。学部 (やりたいこと) よりも、大学名のイメージで進路を決定していないか、受験科目なども考え志望しているか注意を払いたい。

■ 難易度のバランスは適当か

志望校は「挑戦校、実力相応校、安全校」からバランス良く選ぶのが原則。この時期はまだそこまで考えている生徒は少ないが、1年後の入試までにはこのような観点から志望を広く考えられるよう準備をしておくことが必要であることも伝える。

■ 受験科目と自身の履修歴にミスマッチはないか

理科、地歴公民については志望大が課している科目と自身の履修歴にミスマッチがないか確認する。また、センター試験と個別学力試験の配点比率、傾斜配点の見方を示し、各大学の入試でキーになる科目が何かを読み取る力を身に付けさせる。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ (高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス (プラスαの指導)

**生徒の「第1志望」に
教師が徹底的にこだわる**

第1志望に対する自分なりの決意が固まっていない段階で、第2、第3志望を考えることは難しい。「しっかりとした理由と共に第1志望を挙げられるようにしましょう」と教師間で目線合わせをすることが必要だ。たとえ難易度のバランス良く複数校を挙げられていても、志望理由に一貫性がなければ4月以降、生徒の志望が大きく揺れ動いてしまう恐れがある。

**模試の復習を
校内テストに取り入れる**

3年生0学期の学習計画を立てる上で、11月の模試は重要な指針となる。11月模試への意識を高めるため、誤答が多かった7月模試の問題を事前に告知した上で校内テストで出題するのも良いだろう。模試を見直す習慣が付いていない層には、11月模試に向けた良い学習機会となるはずだ。また、模試の見直しノートについても、見本を見せながら再度説明したい。

**諦めさせない指導を
3年生0学期から開始**

3年生になると「これからの巻き返しは不可能」と考え、志望を変更したり、苦手科目を捨てようとしたりする生徒が現れる。少なくとも夏休みいっぱいには粘り強く学習に取り組ませるためにも、3年生0学期のうちに苦手科目の学習に着手させる必要がある。積み上げて学習してきたという実績が生徒の自信になり、易きに流れるのを防ぐことが出来る。